

わが国ODAを巡る現状と課題

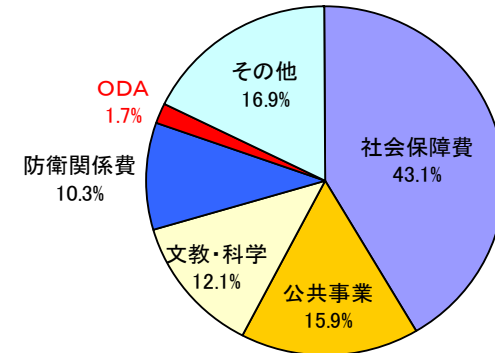
平成17年6月

外務省経済協力局

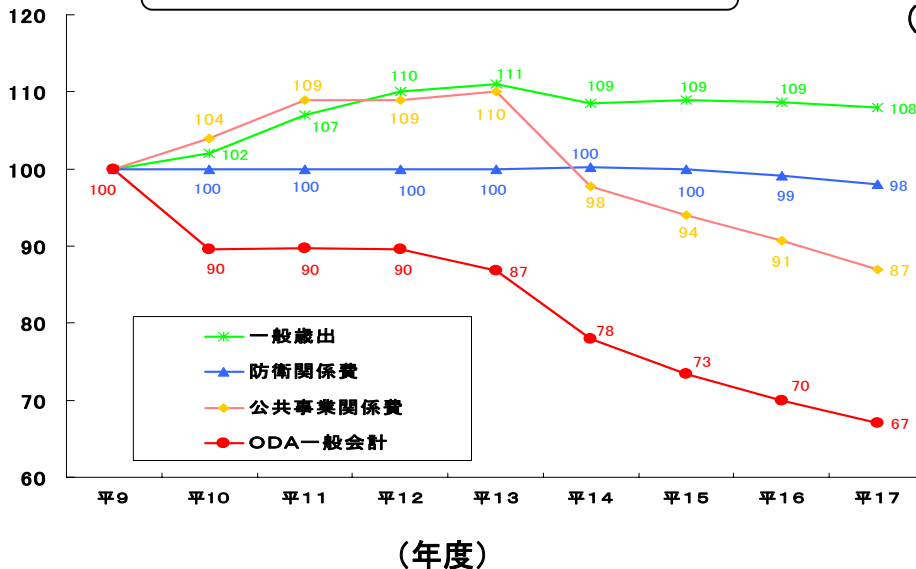
わが国ODA予算・実績は大幅に減少

- ODA予算は、平成9年度をピークに8年間で33%以上削減
- ODA実績は、平成12年から34%減
- 特に、円借款については、今後、新規供与の大幅増の見通しが無い中、返済額が増加し、実績ベースで減少傾向

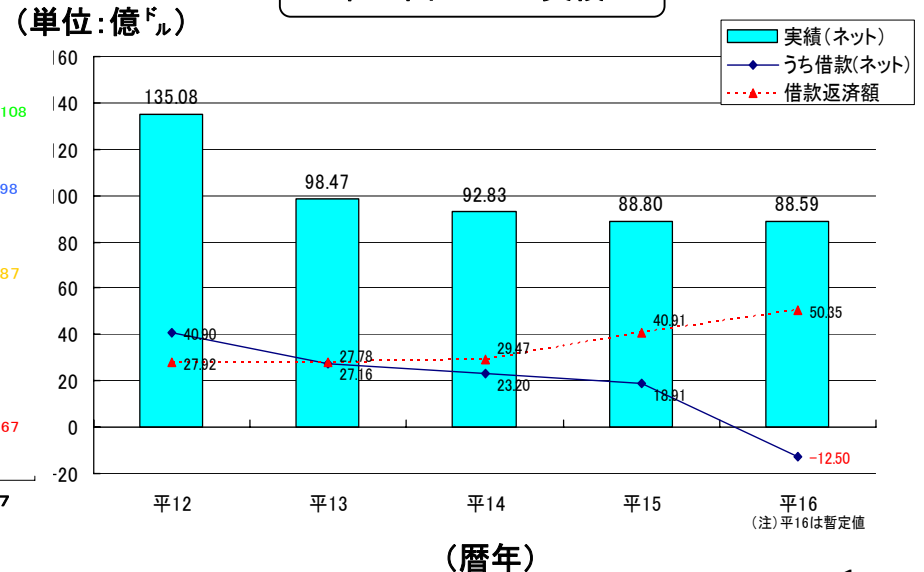
平成17年度一般歳出における主要経費割合



ODA予算とその他主要経費比較(指数)



わが国のODA実績



本年は開発問題が大きな外交課題

国連サミットへの対応(9月)

- ミレニアム宣言及びミレニアム開発目標(MDGs)の中間審査。
- アナン国連事務総長報告の提言。
 - 先進国は、2015年までにODAの対GNP比0.7%目標を達成するための計画を策定。
 - 先進国は、2006年までに大幅にODAを増加、2009年までに0.5%を達成。

<参考>「ミレニアム開発目標(MDGs)」について

2015年までに以下を達成するとの具体的な数値目標。2000年9月に全世界の首脳が参加した国連ミレニアム・サミットで採択された「ミレニアム宣言」に含まれる国際的な公約

貧困： 1日1ドル未満で生活する人々の割合を半減

教育： 初等教育の完全履修を達成

保健： 5歳未満乳幼児死亡率を1 / 3に削減

妊婦死亡率を1 / 4に削減、HIV/AIDS、マラリア等の感染症の罹患を削減

環境： 安全な飲料水のない人々の割合を半減 など

G8サミット(英:グレンイーグルス)への対応(7月)

- アフリカ開発やMDGsが中心議題となる。

アフリカが今後10年の重要課題

東アジアの自立

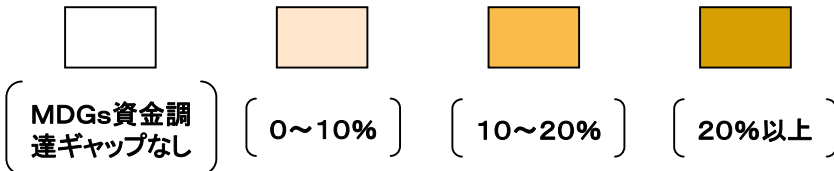
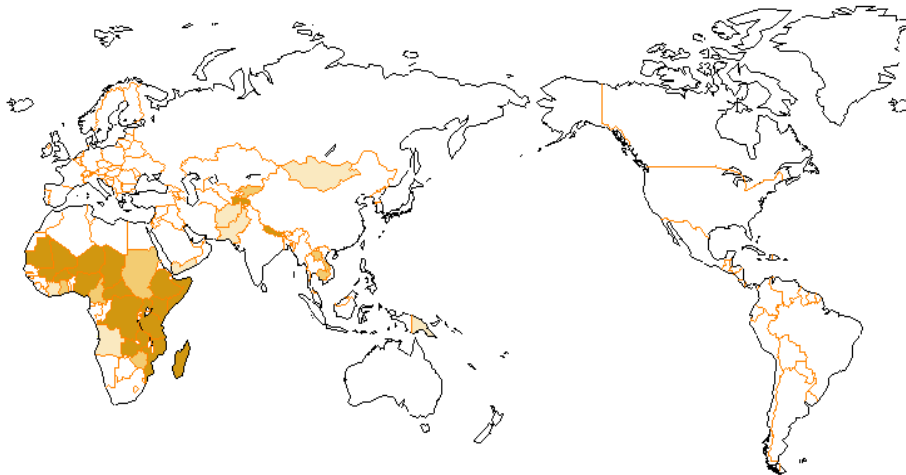


アフリカの低迷

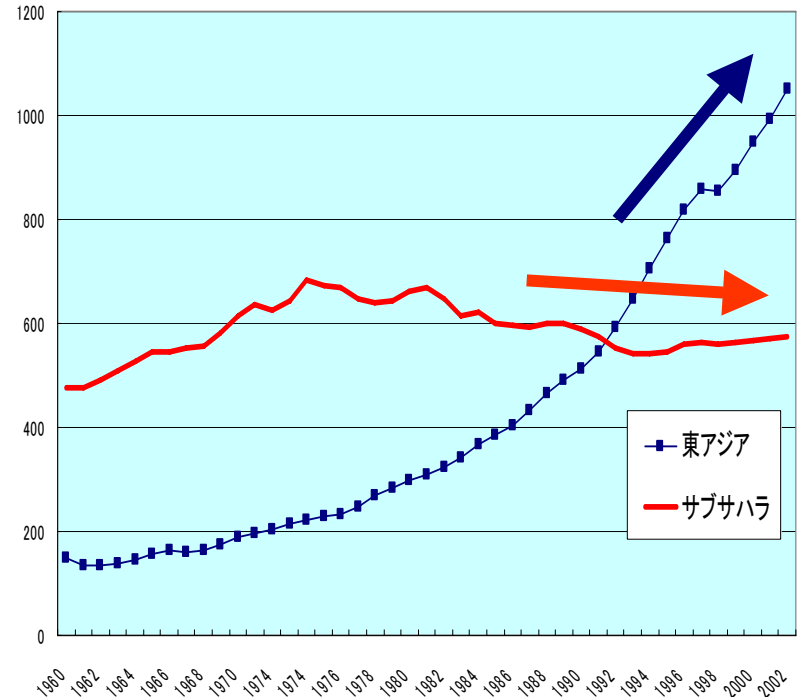
国際社会の支援が持続的な経済成長を通じて貧困削減を実現

国際社会の支援なくして自立不可能

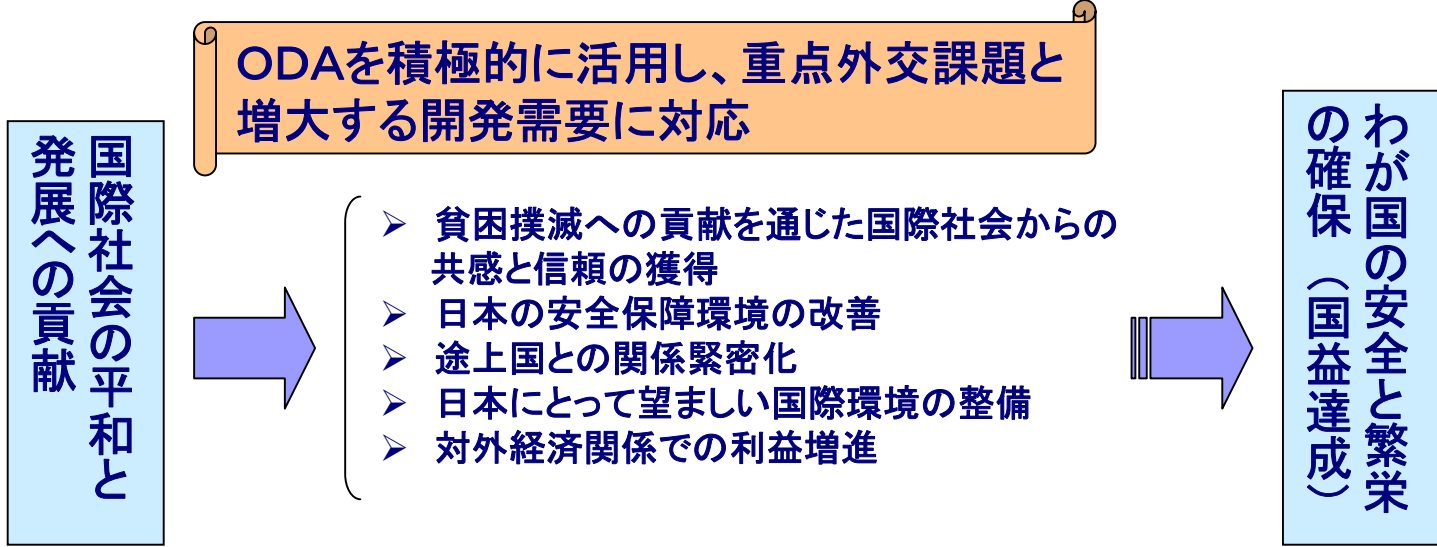
2015年におけるMDGs
資金調達ギャップ(対GNP比%)



一人当たりGNP
(1995年米ドル換算)



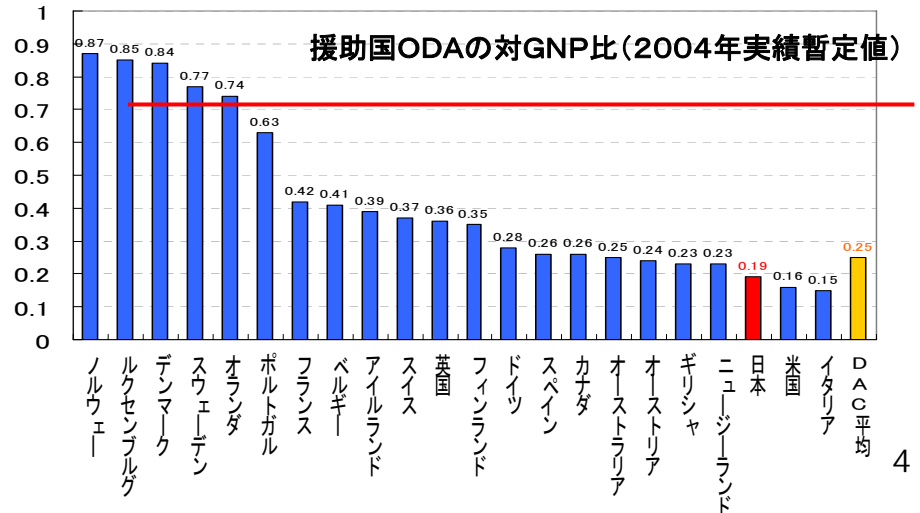
ODAを通じてわが国の外交目的を実現



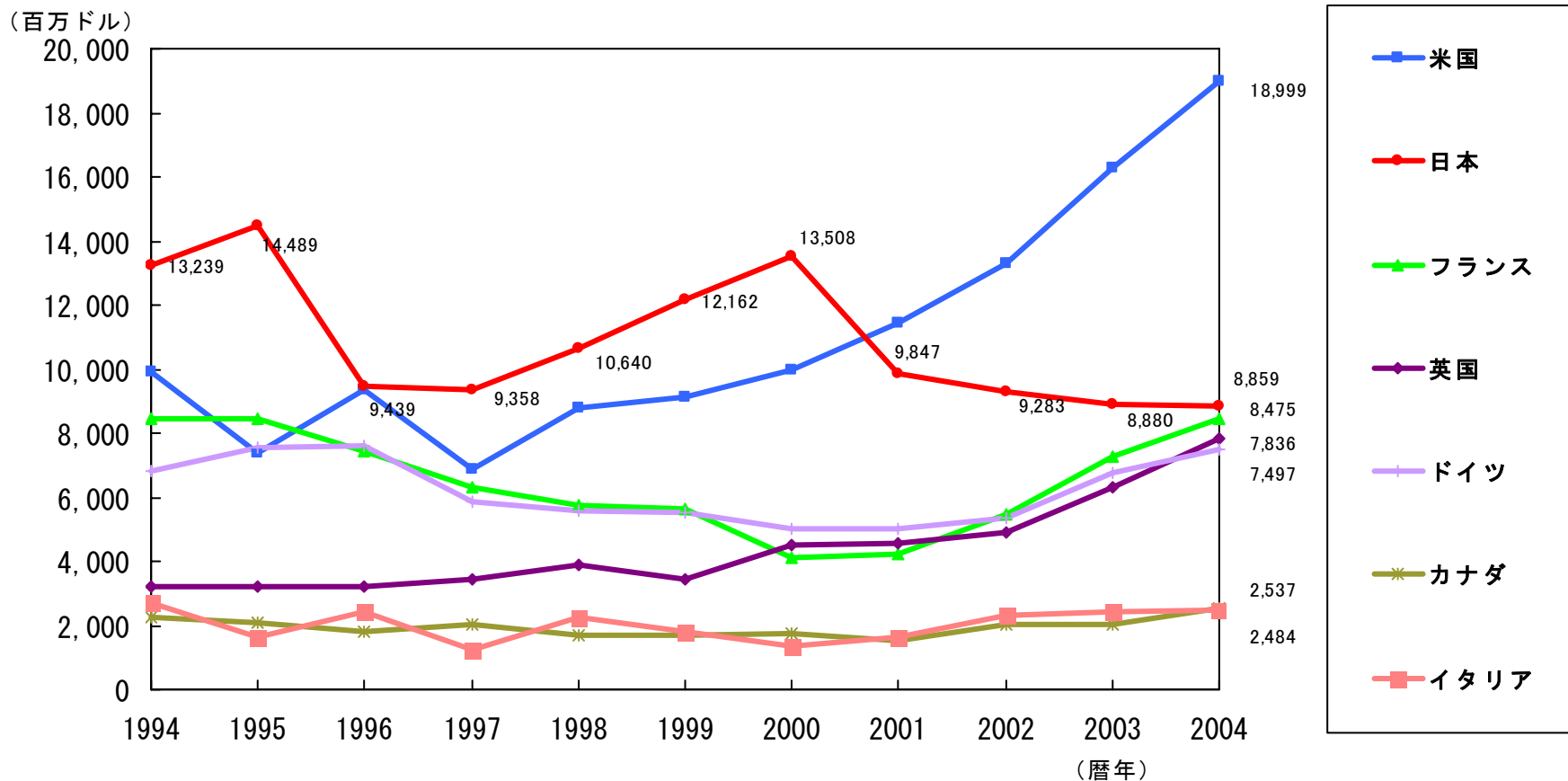
<参考> 安保理常任理事国入りに向けた課題（ODAの対GNP比0.7%目標）（アナン国連事務総長報告）

(ODA/GNP%)

我が国ODAの対GNP比0.7%は、現時点で、**3.6兆円規模に相当**



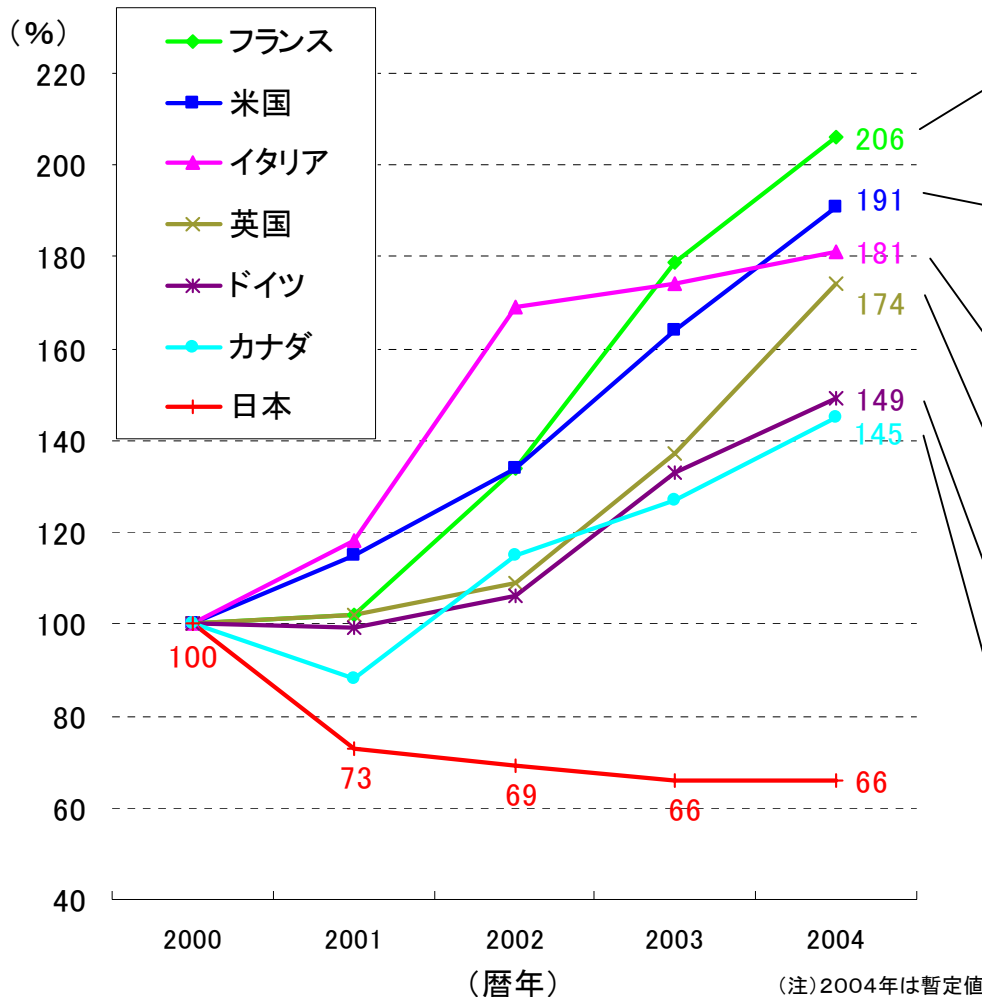
G7のODA実績の推移



(出典:2004年DAC、支出純額ベース、2004年のみ暫定値)

主要援助国はODAを増加

G7のODA実績: 2000-2004 (指数)



各国が掲げるODA増額目標

仏

2007年までにODAの対GNP比0.5%、2012年までに0.7%を実現。



米

「ミレニアム挑戦会計(MCA)」を将来的に年額50億ドルまで増額。



伊

EUの共通目標に沿って、2010年までにODAの対GNP比0.51%を実現。



英

2005年までにODAの対GNP比0.4%、2013年までに0.7%を実現。



独

2006年までにODAの対GNP比0.35%、2010年までに0.5%、2014年までに0.7%を実現。



加

年8%増額し、2010年までに倍増(2003年基準)。



ODAを巡る主要外交日程

